

“天への孝情、世界の光たれ”

真のお父様「聖和 4 周年聖和祝祭」を盛大に開催



真のお父様の聖和 4 周年を迎えた天一国 4 年天暦 7 月 17 日（陽暦 8 月 19 日）、韓国・清平の清心平和ワールドセンターでは、天地人真の父母様をお迎えして、内外の貴賓や平和大使、全世界の祝福家庭、食口など約 2 万人が集まる中、「文鮮明 天地人真の父母宇宙聖和 4 周年聖和祝祭」が盛大に開催されました。全世界 194 カ国にインターネット中継されたこの日の式典は、侍墓 3 年の精誠期間を終えて初めて迎える聖和節として、真のお母様が今年からこの日を「聖和祝祭」として盛大に祝賀することを宣布。第 1 部の記念式に続き、第 2 部は「文化競演」、第 3 部は「孝情ピースフェスティバル」が行われ、この日の行事は午後 11 時まで続きました。



「天への孝情、世界の光たれ」をテーマに開催された今回の聖和祝祭。天の父母様に対する真の父母様の「孝情」の伝統を相続し、私たちが真の父母様を

世界に知らせて誇る「世界の光」となって欲しいとの天の願いが込められています。

第 1 部「記念式」では、正面のステージいっぱいに半円柱の造形物が設置され、そこに様々な映像が映し出され荘厳な雰囲気を演出しました。

最新の統一運動とお母様のみ言を盛り込んだ式前映像が約 10 分間にわたって上映された後、司会の柳慶錫・韓国家庭連合会長が力強く開会宣言。全体で天一国の歌を斉唱し、宋龍天・全国祝福家庭連合会総会長が報告祈禱を捧げました。

続いて、文善進世界会長が記念の辞を述べ、「真のお父様の聖和以後の 4 年間、真のお母様はお父様の夢を成就してさし上げるために、休みなく活動してこられました。人類一大家族、天一国の実現に向けて、たった一人で私たちを導いてこられたのです。それは今ではただの夢ではなく、栄光の現実として現れています。私たちは日々全世界から伝わってくる勝利の便りを確認しています。数十年間蒔いてきた種

が実を結んでいるのです」と強調されました。

その上で、「ここ清平で、お母様はお父様の真の愛と恩恵と平和の驚くべき遺産を保存され、永遠性を付与しておられます。この地を中心に天地鮮鶴苑と孝情修鍊院がつくられるようになり、ここで全世界の人々が天の父母様の復歸された子女として生まれ変わって祝福を受け、真なるオリーブの木に接木をされるようになるでしょう」と語られました。

特別讃揚、記念映像「天への孝情、世界の光たれ」の上映に続き、雄壮な 8 個の太鼓の演奏とともに、特別公演「君の道」が披露。人類の墮落と復歸、真の父母様の路程が歌と踊り、写真と映像で描かれ、最後は成和学生たちが真の父母様への愛を歌い上げました。

ステージ上の巨大な円柱が左右に開き、満天の星空がスクリーンに映し出されると、ドライアイスの煙が立ち込める幻想的な雰囲気の中、会場正面にステージ上方から真のお父様の巨大な尊影が“降臨”。

続いて、ステージ中央の“せり”に乗って真のお母様が登場されました。

お母様がお父様の尊影の前に献花された後、全体でお母様に向けて敬拝。続いて、お母様が約 15 分にわたってみ言を語られ、「お互い言葉が違い、環境が違いますが、真の父母を知っているので私たちは一つになることができます。ですから必ず天の父母様の夢、真の父母様の夢、人類全体の願いを成し遂げて差し上げるその日まで、私たちは総進軍しなければなりません」と涙ながらに訴えられました。（3 面にみ言抜粋）

み言が終わると、フィナーレとして特別公演の出演者とリトルエンジェルの少女たちが登壇し、全体が起立して壇上のお母様とともに「祖国讃歌」を歌う中で、第 1 部が閉幕しました。

真のお母様のみ言

真の父母様を知った私たちは一つ



天地人 참父母 天宙聖

以下のみ言は8月19日、韓国・清心平和ワールドセンターで開催された「文鮮明 天地人真の父母天宙聖と4周年聖和祝祭」で、真のお母様が語られた内容を翻訳し、一部を抜粋・整理したものです。(文責：広報局)

* * *

世界の全ての人たちの心は世界平和に向かおうとしています。しかしどのように行かなければならないかを知りません。ですから彼らは家庭連合がしている運動に積極的に参加、同参して喜んでいるのです。天の父母様の夢、真の父母様の夢、人類の願いは天の父母様のもとの人類一大家族です。

しかし、今日の世界には多くの問題があります。宗教紛争、人種紛争、領土紛争、全てが自己中心による利己的行動をしています。また、産業革命を通じて人類の生活は富と豊かさを拡大したかもしれませんが、2次、3次の強大国が現れながらも、良い点よりは未来を心配しなければならない多くの問題を生み出しています。その一例が気候変動です。地球が荒廃しています。人類が生きていくのに最も貴重な光、水、空気がますます減ってきています。

このような現象を見られたお父様は南米で、将来的に食糧問題と気候変動への対策を実践的にしなければならぬと考えて、長年にわたって摂理を進められました。これまで人類の未来を心配している人たちは、気候変動



についての多くの良い意見や問題について話しました。ところが、その問題点をどのように克服し、解決すべきなのかということについては考えられませんでした。そうできない原因として大国の問題があるのです。今までの科学文明は、一言で言えば戦争のため、破壊のための科学でした。そうですか？違いますか？ですから、私はこの科学者大会を復活させようと思います。すべての難問題、破壊ではなく本来の神様がこの美しい地球星を創造されたその状態に戻す努力と運動をしようということです。そこには知っている人、学んだという人が先頭に立って取り組まなければなりません。そうしてこそ人類に信頼を与えることができます。それで、私はこの科学者大会を科学学術院として開始して、新聞社を通じて言論界を通じて教育する必要があると思います。そして結果を示せる仕事をしようと思います。

きょう、皆さんはこの舞台上で美しいパフォーマンスを見ました。ここに世界から集まった二世、三世、1200名が同参しました。私たち統一家の未来の指導者たちです。お互い言葉が違い、環境が違いますが、真の父母様を知っているのだから私たちは一つになることができます。ですから必ず天の父母様の夢、真の父母様の夢、人類全体の願いを成し遂げて差し上げるその日まで、私たちは総進軍しなければなりません。きょう、お父様の聖和4周年に私たちが大きなみ旨を抱いて、この仕事を必ず成し遂げますと決意をするこの時間になるようお願いします。

大陸別の代表が“孝”の心情を競演

「文化競演」「孝情ミュージックフェスティバル」開催



①孝の心情を全身で表現する南東京教区の成和学生 ②日本の女性歌手とともに文孝進様の『永遠に愛する、春の雨のように (영원히 사랑해 봄비와 같이)』を熱唱 ③「大賞」に輝いた日本のメンバー ④「文孝進ミュージックフェスティバル」で孝進様の歌を披露する信汝様



真のお父様の聖和4周年聖和祝祭は、第1部の記念式に続き、第2部として「文化競演」、第3部として「孝情ピースフェスティバル」が開催されました。

正午前に始まった「文化競演Ⅰ」では、長子の国・米国、母の国・日本、父の国・韓国がそれぞれ、精誠を尽くして準備してきた歌や演奏、ダンスなどを繰り広げ、会場を魅了しました。

また特別プログラムとして、真のお父様の「ご飯が愛である」という思想をもとに、真のお母様が直接混ぜ合わせてくださるビビンパプの“聖餐”を食べて和合と統一を成すという「和合統一ビビンパプ分かち合い大祝祭」を実施。お母様を中心に真の子女様と全世界の大陸会長が、13大陸を象徴する13品目のおかずが載せられた巨大な「和合統一ビビンパプ」を大きなしゃもじで混ぜ合わせました。でき上がったビビンパプをお母様が器によそわれ、参加者に直接下賜される場面もありました。

午後2時から、「孝情ピースフェスティバル」を開催。オープニングの太鼓のパフォーマンスの後、「文化競演Ⅱ」が行われ、アジア、南米、欧州、西アフリカ、中華圏の5大陸の代表が、それぞれの地域の伝統文化に基

づいた魅力あふれる歌や舞踊などを披露しました。

続いてリトルエンジェルス特別公演、韓国の人気歌手が会場を盛り上げ、最後に大陸別文化競演の結果が発表。南東京教区の成和学生(中高生)を中心に感動的なパフォーマンスを披露した日本チームが第1位の「大賞」に輝きました。

午後7時45分からは、この日の最後のプログラムとして「文孝進(孝情)ミュージックフェスティバル」を開催。様々なバンドやグループが孝進様の楽曲で会場を沸かした後、最後は、孝進様が生前に率いられた「文孝進バンド」の演奏をバックに、長女・信汝様、次男・信興様、長男・信出様の順に孝進様家庭の3人の子女様が、孝進様の歌を心を込めて歌い上げられました。

マイケル・バルコム米国家家庭連合会長が億萬歳4唱を唱えた後、フィナーレとして信興様が「汽笛の音」を歌われると、熱狂した参加者が舞台上に押し寄せ、会場の盛り上がりは最高潮に。

午後11時、全体で「真の父母様、愛しています、ありがとうございます」を叫んで、この日の聖和祝祭のすべての行事が終わりました。

“地上天国の姿を見せてあげなければなりません”

聖和 4 周年を記念して様々なイベント開催



「鮮鶴歴史編纂苑」奉獻式

真のお父様の聖和 4 周年聖和祝祭の余韻が残る翌 8 月 20 日、真のお母様をお迎えし、「HJ 天苑」（清平聖地の新名称。HJ＝孝情）内に移転された「鮮鶴歴史編纂苑」の奉獻式が執り行われました。

真のお母様は、真の父母様のみ言と摂理歴史を記録した膨大な資料を一箇所で安全に保管し、み言と業績を編纂する歴史編纂苑の使命を重視され、ソウルから HJ 天苑への移転を命じられました。

奉獻式には、真の家庭と指導者、中心食口など約 200 人が参席。真のお母様は、天一国発展の先駆者となる鮮鶴歴史編纂苑になることを願われ、以下のように祝福されました。

「ここを中心として、出ていく映像やすべてのみ言の資料が、未来の私たちの後代、天一国の民の指針となることの出来る、摂理歴史において重要な責任を担う、この殿堂をお父様に奉獻いたしますので、高く高く誇って下さり、祝福して下さい」

式典に続き、お母様が「孝情蓮」と命名された裏庭で

記念植樹と表示石の除幕が行われました。引き続き、お母様は苑内の展示室と資料保管室をご視察。また、同じ建物に入居する天法苑や天公苑、PeaceTV などを見て回り、スタッフたちを温かく激励されました。

天一国指導者総会

8 月 20 日、天正宮博物館では、文善進世界会長の開会のメッセージを皮切りに、「天一国指導者総会」が開幕しました。

世界の指導者約 400 人が参席する中、2 泊 3 日の日程で行われた総会では、摂理の中心国家である韓国、日本、アメリカと、特別戦略国家 13 カ国における伝道戦略が発表されました。

今回の総会では、特別に韓国、日本、アメリカの聖和委員会の発表が行われ、統一家の聖和文化の定着に向けた共有の時間となりました。

22 日の閉会式では、真のお母様が「聖和 3 周年を越え、4 周年からは、地上に私たちの環境圏を広げなければなりません。そして私たち統一家！真の父母様に侍る子女

たちの生活、あらゆるものが人類の前に見本とならなければなりません。標準にならなければなりません。ですから、私がこの孝情天苑において、人類の前に見せてあげられる、天が願われた、真の父母様が必ずや成して差し上げなければならないその姿を、その一つの世界になり得る地上天国の姿を見せてあげなければなりません」と語られました。



天一国学術苑創立総会及びシンポジウム

8 月 22 日、天正宮博物館で天一国学術苑創立総会及びシンポジウムが開催されました。天一国学術苑では、全世界の統一家の学者たちが一つとなり、天一国安着のために研究し、教育していく予定です。

続くシンポジウムでは、文善進様の論文発表を皮切りに、4 つの主題で発表と討論の時間を持ちました。



世界宣教戦略院総会

天一国指導者総会を通して、真の父母様のみ言と摂理戦略の共有がなされた土台の上で、8 月 23 ～ 24 日、天正宮博物館と清心青少年修練院で「世界宣教戦略院総会」が開催。「伝道」「家庭」「青年祝福」などの分科会が持たれるとともに、具体的な宣教システムやコンテンツの適用などが議論され、天一国安着に向けた方向性を確認する貴重な時間となりました。



- ①「鮮鶴歴史編纂苑」奉獻式に臨まれる真のお母様（中央）
- ②奉獻式に参加した日本の関係者
- ③植樹式で土をかけられる真のお母様
- ④お母様のみ言に耳を傾ける参加者
- ⑤「天一国指導者総会」の閉会式でみ言を語られる真のお母様
- ⑥天一国学術苑創立総会で祝辞を述べられる文妍娥・圓母平愛財団理事長
- ⑦シンポジウムで論文を発表される文善進様
- ⑧具体的な議論が交わされた世界宣教戦略院総会

“人類を天の父母様・真の父母様の 懷に導く英雄となれ”

「真の父母様主管 HJ 天苑特別修鍊会」閉幕



「真の父母様主管 HJ 天苑特別修鍊会 (2016 Global Top Gun Youth)」が8月21日、天正宮博物館で行われた閉会式をもって終了し、全世界13大陸、65カ国より集った約1200人の修鍊生が、統一運動の未来世代として新たな出発を成しました。

3週間にわたって行われた修鍊会では、第1週は国際的な班編成での聖地巡礼、第2週は言語別に分かれての原理・真の父母様の生涯路程等の学習を実施。第3週は聖和4周年記念行事に向けての練習と、様々なイベント企画や行事(スポーツフェスティバル、ピースロード記念式典と平和行進、天正宮訪問と本郷苑参拝等)への参加となりました。

修鍊生全体のプログラムや国際班を編成しての活動では、UPA(天宙平和士官学校)の学生とUPAを卒業し世界に派遣されている青年特使が司会や班長を担当。3カ国語(韓国語・日本語・英語)で班をまとめながら、2カ国語以上を使うことのできる修鍊生と協力して交流を行っていました。修鍊会では、常に7カ国語の通訳が必要となり、修鍊生は多様な言語・文化の中で生活を共にしました。

特に、聖和4周年記念式典におけるミュージカルの一部分を修鍊生1200人が担い、修鍊会期間中に覚えた歌とダンスを披露。世界の二世圏が真の父母様の下に一つとなり心情文化を発信する役割を果たしました。

8月21日の閉会式では、韓国・日本・国際チームの代表が韓国語で証しを発表し、それぞれエンターテインメントを披露しました。そして、真の父母様から各大陸の代表に修了証書が授与され、天一国経典『真の父母経』が贈られました。その後、聖和4周年記念式典において披露した歌「風車」を全体で歌って、修鍊会を通して受けた恩恵に対する感謝の気持ちをお捧げしました。

真のお母様は修鍊生の成長した姿を前にして、以下のようにみ言を語られました。

「皆さんがこの期間、原理のみ言も聞いて、父母様について勉強したとのことですが、よく学びましたか？今日の世界は多くの問題を抱えています。解決できる人も方法ありません。今も中東とヨーロッパでは民族紛争、宗教紛争、また領土をお互い『私のものだ。私のものだ』と言いながら争うことばかりしています。いつ世界が一



つになれるのでしょうか？

皆さんも皆さんの父母も全て整った環境で祝福を受けたわけではありません。そうであれば多くの内容がなければなりません。ところで、皆さんたちは幼いころはそれを知らなかったでしょう。「なぜ私たちの父母は私たちを捨ててみ旨のみ考えているのか？」そんな考えをたくさんしたでしょう？今わかりましたか？間違った考えだということがわかりましたか？ではどのように決心しなくてはなりませんか？

皆さんは、皆さんの父母と関係のない、真の父母の真の息子、娘です。そうであれば父母様の事情と心情をどのようにしなければなりませんか？理解し成し遂げて差し上げる皆さんたちは、この時代の統一家が、人類が願う、天の父母様が願われる、真の父母様が願われる英雄たちです。英雄は困難や苦痛を克服しなければなりません。わかりましたか？平安な立場で成されるではありません。真の父母様も同じです。しかし真の父母様は一人で出発しましたが、皆さんは違いますね？

ですから皆さんが真の父母様と心情一体を成し、皆さんが各分野で最高にならなければなりません。そしてこの73億人類を天の父母様、真の父母様の懷に導く、ただこの時代に一度しかいない、皆さんは英雄です。皆さんがどのような環境にしようとも皆さんは勝利するでしょう？そのうれしい報告を聞くために私は皆さんとずっと長く地上で生きられるよう努力します」(※)



- ①閉会式で真のお母様を中心に全体で記念撮影
- ②閉会式でみ言を語られる真のお母様
- ③真のお母様から修了証を受け取る修鍊生
- ④閉会式でお母様にエンターテインメントを披露
- ⑤ソウルの日本部教会で説明を受ける修鍊生
- ⑥国際班での交流
- ⑦聖地巡礼で訪れた原殿で祈禱する修鍊生
- ⑧配布されたTシャツを持ってポーズ

修鍊生たちは、何よりも真の父母様の下に世界の二世圏が一つになる体験を通して、天の父母様・真の父母様の愛を受ける子女であり兄弟姉妹であることを実感。全人類を天の父母様・真の父母様の下へ導いていく統一運動の未来世代として、これからも天に対する孝情を育み、世界の光となることを目指していくことを固く決意し、出発していきました。

※真のお母様が「閉会式」で語られた内容を翻訳し、一部抜粋・整理したもの。

“家庭連合時代の婦人の使命果たしたい”

清平で「日本婦人代表研修会」



①天正宮博物館前で真のお母様を中心に記念撮影
②花束を受け取られる真のお母様
③多くの恩恵があった研修会

「家庭連合時代の婦人代表のあるべき姿」をテーマに、日本婦人代表研修会が8月17日夜から18日にかけて、韓国・清平の清心国際青少年修練院で開催され、約350人が参加しました。

徳野英治会長は、「天一国・家庭連合時代に願われる婦人代表の心構え」をテーマに、7つの観点から講話。また、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は、「新しい時代における私たちの役割」と題してメッセージを語り、「教会長と一つになって、食口の手を取り合いながら神様に侍る真なる教会、家庭の見本となる家庭教会を、皆さんがまず先頭に立ち実践して下さることを願ってやみません」と強調しました。

李海玉総会長夫人は、「神は、その人の能力ではなく、信仰に働かれる。今も皆様の心のうちは、真の父母様への愛で満ち満ちていますか。信仰とは愛であり、私の人生の結論です」と語りかけました。

研修会では、各局の責任者が報告。教会の要である婦人代表が、世界貢献だけでなく伝道や二世祝福などにも深い関心を持って牧会者を支援してほしいとの願いが多

く寄せられました。また南北海道、西北東京、福島各教区の取り組みについて、各婦人代表が精誠のこもった勝利の証しを披露し、参加者に強い感銘を与えていました。

参加者は18日午前、本郷苑で参拝をなし、真のお母様と一緒に記念撮影をする機会に恵まれました。記念撮影を終えて車で次の視察場所へ移動されるお母様は、車の窓から右手でVサインを示して、日本教会の勝利を激励してくださる場面もありました。

参加した婦人代表からは、「研修会の内容は家庭連合時代にふさわしい『母』となるために、霊的成長、内的成長が最も願われている事であり、信仰の見つめる観点を天の視点で見つめていくことであると教えていただきました。伝道からの世界貢献の道、二世の育成、祝福にも責任を持つことの意識革命をしていきたいと思います」「研修会を通じて感じたことは、自分自身が生まれ変わる決意が必要だということ。教会においても家庭においても母になる決意が必要であるということを実感しました」など、喜びと決意の感想が聞かれました。

統一と平和の祭り「PEACE ROAD 2016」

韓国・臨津閣で縦走完了式



①愛媛県の PEACE ROAD 参加者と支援者
②高知ルートの中継地で太平洋をバックに
③世界の若者を集めて韓国・臨津閣で行われた縦走完了式
④韓半島の平和統一の願いを込めて走る若者たち

「文鮮明 天地人真の父母 宇宙聖と4周年」を記念し、6月25日に北海道・稚内を皮切りに始まった「PEACE ROAD 2016 in Japan」（主催・同実行委員会）。8月に入っても多くのライダーが韓半島の平和統一と世界平和実現への願いを込めて、全国各地を自転車で駆け巡りました。

高知県では6月27日から8月6日にかけて、四万十市から出発し、室戸岬までの330キロメートルを走破。徳島県では同6日、四国八十八カ所1番札所の霊山寺からスタートし、23番札所薬王寺までの80.4キロを走り抜きました。

愛媛県では8月6日、3つのルートに分かれて、13人のランナーが参加。香川県では同7日、総勢40人がタスキをつなぎながら全長約100キロを完走し、ゴールでは全員で「統一の歌」を歌って平和を祈願しました。

8月7日、福岡市内で「PEACE ROAD 2016」九州大会が開催。福岡、佐賀、長崎各県の縦走が無事に終了したことを祝いました。

茨城県では8月1日、2日の両日、鹿島神宮などの

とうごくさんしゃ
東国三社を回りました。

群馬県では8月4日、尾瀬から高崎家庭教会までを走破。途中、前橋市と伊勢崎市の市役所を表敬訪問しました。

山梨県では8月1日から3日にかけて県内を46人で走破し、その模様が地元テレビの特集番組で紹介。同7日に兵庫県内で行われたイベントも、地元の新聞で報道されました。

韓国では、日本各地を走破した日本人ライダーと合流し、8月9日に釜山を出発。16日に北朝鮮国境に近い坡州市の臨津閣に到着しました。

16日は、PEACE ROADに参加した世界65カ国の青年学生代表約1200人が坡州市の臨津閣に集まり、縦走完了式を行い、韓半島の統一を祈願するとともに、第5国連事務局の韓国誘致とDMZ（非武装地帯）世界平和公園構想のための最後の縦走を行いました。

翌17日、韓国・国会で「世界縦走団到着歓迎式」が行われるとともに、「PEACE ROADによる南北統一と世界平和の推進国際シンポジウム」が開催されました。

天から賦与された創造性を 100%発揮しよう！

「家庭連合」出帆 1 周年記念集会



① 宋龍天総会長のメッセージを聴く参加者
② 宋龍天総会長
③ 徳野英治会長

8月26日、世界平和統一家庭連合出帆1周年を記念する集会が東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で行われ、本部職員や統一運動諸団体の関係者が多数集まりました。この日を期して教会の看板等での旧名称の併記を終え、名実ともに家庭連合として出発することを祝賀するとともに、VISION2020の勝利と天一国安着に向けて“総進軍”していくことを改めて決意をする時間となりました。

集会では、徳野英治会長が、家庭連合への名称変更に至る経緯を紹介。「中心者の決意に加え、“ウリニンハナダ（私たちは一つ）”の精神で関係者が総力を挙げて取り組んだ結果です」と語りました。

さらに徳野会長は、韓国・清平でこのほど行われた真のお父様の聖和4周年記念行事に向けて真のお母様が並々ならぬ決意で臨まれたことを強調。「(お母様の) 心情と決意にどれだけ相対できるのが重要です。2020年までの残り3年半、天の父母様の夢、真の父母様の夢を実現するため、きょうから再出発しましょう」と呼び掛けました。

また、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長はメッセージの中で、名称変更1周年は歴史的・摂理的な機会であると指摘した上で、「心情文化革命、“孝情”文化革命を起こす時を迎えました。今までの責任分担を果たすという意識を転換し、創造性を持つ“主人”であるという意識を持って、天が与えた創造性を100%発揮していきましょう」と語りました。

最後に宋総会長は、「変化と革新とは準備するものではなく、今この時に成すものです。家庭連合の文化を定着させるには、まず私自身の革新から始めなければなりません。過去の自分中心の習慣や意識を捨て去っていくなら、天が共にあるでしょう」と述べました。

徳野会長と宋総会長のメッセージに先立ち、聖和4周年記念行事に参加した矢野治佳伝道教育局長、阿部美樹家庭教育局長、竹内啓晃青年学生局副局长がそれぞれの立場から所感を述べました。

集会は、宋総会長の祝福の後、方相逸復興局長のリードで億万歳4唱を行い、閉幕しました。

「国家メシヤ出発 20 周年記念集会」開催

8月11日、東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で「国家メシヤ出発20周年記念集会」が開かれ、「国家メシヤ」として国内外で精誠を尽くしてきた先輩家庭と関係者が集まりました。

第1部では、映像上映や祝歌などの後、久保木修己初代会長の令夫人・哲子夫人（中国国家メシヤ）が挨拶。「4年後には東京オリンピックがあります。リオ・オリンピックでの日本選手の活躍ぶりを見ながら、2020年までに日本がエバ国家としての責任を果たし、真のお母様に“金メダル”をかけて差し上げたいと思いました」と語りました。

また、徳野英治会長はメッセージの中で、真のお母様が北米大陸の責任者に対し、「アメリカはあまりにも大きな国だから基盤造成は難しいと思っていますのでしょう。最初から難しいとは思ってはいけな

い。不可能に見えることを可能だと思いなさい」と語られたエピソードを紹介。「『不可能を可能にする』という発想の原点は、真のお父様にあります。お父様の側で50年間訓練を受けてこられたお母様ならではのみ言です」と述べ、「VISION2020勝利に対するお母様のご決意は並大抵のものではありません」と強調しました。

第2部では、日本の国家メシヤが進める南米パラグアイのレダ開拓に関する講話も行われ、天の願いを再確認して新たに出発するひと時となりました。



真のお父様 聖和 4 周年記念 「SEIWA FESTIVAL 2016」

8月10日夜、都内の会場で「文鮮明総裁聖和4周年記念 SEIWA FESTIVAL 2016」が開催され、青年学生を中心に約1300人が参加しました。同大会は真の父母様が人生をかけて天に捧げた「孝」の伝統精神の相続を目指して行われました。

大会は、徳野英治会長の主催者挨拶と宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長による基調講演を通して、生涯を天の父母様に捧げ、人類救済の使命を受けて、救世主として、真の父母として歩まれた真の父母様の「孝」の伝統精神を知る貴重な時間となりました。

その後、高校生から社会人までのプレゼンター4人が、自身の体験から学んだ「孝情」の世界を、練り上げた自分の言葉で語り、聴衆の心に感動と勇気、そして希望を与える素晴らしいメッセージを伝えました。

4人のスピーチを包み込むように、ダンスや合唱、演奏などの若さ溢れるパフォーマンスが演出効果を高め、天の父母様と真の父母様への孝子孝女の道を歩む強い決意を表現。父母への感謝と二世としての誇り、霊界にいらっしゃる真のお父様への思慕の情と真のお母様への慰労の心情、そして共通の親を持った兄弟姉妹への強い絆を全員で共有する大会となりました。

